美術館はどんなところ？

■ 美術館の役割

美術館は美術作品を収集保存し、作品の研究、展示を行うとともに、美術に関する教育普及活動を行う施設です。

■ 横須賀美術館の特徴

横須賀美術館は、横須賀市の市制100周年を記念して2007年に開館しました。建物は、建築家の山本理顕氏が設計したもので、次のような特徴があります。

01 景観と一体化した外観

後ろ側を森に囲まれ、目の前には東京湾が広がる独特の景観。建物は地上2階建てで、地下もあります。建物の高さを低めにおさえることで、周りの自然に溶け込むと同時に、潮風によるダメージを最小限にしています。

02 ガラスと鉄板の二重構造

建物には柱がなく、分厚い鉄の板を熔接した壁によって、形づくられています。そして、鉄の壁の外側には、ガラスの覆いがあります。ガラスは塩分に強い素材なので、海風から建物を守る効果があります。
また、鉄でできた内部空間は、壁と天井の境が、なだらかになっています。

03 天井や壁に開いた大穴

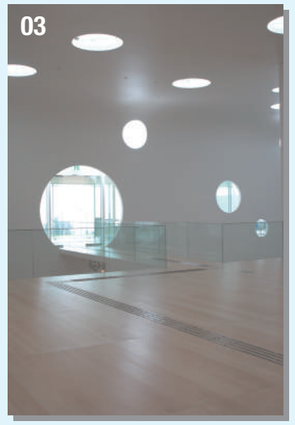
壁や天井にあけられた丸穴は、館内に自然の光を取り込みます。また、丸穴から見える海や空が、外の景色を感じさせ、開放的な空間をつくり出しています。

04 美術館の裏側

展示室、ワークショップ室、図書室などのほか、作品を保管するための収蔵庫、展示器具を収納するための倉庫などがあります。展示室や収蔵庫では、作品の保管に適した温度や湿度が整えられています。

01

02


03

04

中学生のための横須賀美術館鑑賞ガイド

2023

荒井良二《流れ星スパーク奏でよギター》2022年　個人蔵
企画展「new born 荒井良二　いつも しらないところへ たびするきぶんだった」
（会期：2023年7月1日～9月3日）出品作品

中学生以下無料

いま見ることができる展覧会

- new born 荒井良二
  いつも しらないところへ たびするきぶんだった
- 荒井良二が選ぶ 谷内六郎〈週刊新潮 表紙絵〉展
  毎週ぼくは谷内六郎に会っていた
- 所蔵品展　特集：没後20年　若林奮

休館日：8月7日（月）

「中学生のための美術鑑賞教室2023」

夏休みに美術館を訪れる中学生を対象に
美術鑑賞教室を開催します

日時：8/11（金・祝）、12（土）、13（日）、
14（月）、15（火）
13：30～（30分程度）

対象：中学生（同行の保護者も参加可能）

場所：美術館2階情報スペース

申し込みは不要です。
当日集合場所にお集まりください

横須賀美術館にようこそ！

美術館ってどんなところ？
どんな展覧会を開催しているの？
作品のみどころを教えて！

このガイドで美術館を楽しみましょう

美術館でのルール

- ●食べない・飲まない――展示室ではアメやガムも ×
- ●メモはえんぴつで
- ●話す時は小さな声で――他の人の迷惑にならないように
- ●さわらない――作品や展示物にはさわらないように
- ●走らない――作品や他の人にぶつからないように

注意

バインダーやえんぴつはおうちから持ってきてください
（受付で貸出は行いません）。

横須賀美術館 YOKOSUKA MUSEUM OF ART
横須賀市鴨居4-1　TEL.046-845-1211（代表）

newborn 荒井良二

いつも
しらないところへ
たびする
きぶんだった

旅をするような気分で日々作品を生み出してきた荒井良二さんのジャンルを問わない表現の現在地を、絵本原画、新作のインスタレーション、絵画、スケッチ、立体作品から私蔵の小物まで織り交ぜながら紹介する展覧会です。

『たいようオルガン』原画、2008、偕成社

ここに注目！

絵本や書籍原画の細部までじっくりと

あたたかく鮮やかな色彩、描けそうで描けない独特の線やかたち、そして心にふっと灯りがともるような読後感。荒井さんの絵本や書籍は、一言では言い尽くせない魅力であふれています。青と赤の２つの気球、窓から顔を出す人…小さく描かれたそれらを、見つけられるかな？

製作風景《new born 旅する名前のない家たちを ぼくたちは古いバケツを持って追いかけ 湧く水を汲み出す》
協力：宮本武典、積水ハウス株式会社
※本作は、積水ハウスのゼロエミッションの一環として、同社から提供された建築廃材で制作されました。

ここに注目！

旅する新作インスタレーション

新作《new born 旅する名前のない家たちを ぼくたちは古いバケツを持って追いかけ 湧く水を汲み出す》では、小さな家々が展示されています。点在するそれらの小さな家々には車輪がついていて、よく見ると子どもたちが旅をしながら暮らしているようです。家の素材や形態、そして細部の設えなどから、想像して、あなただけのその家の物語をつくってみましょう。

《いつも 知らないところへ 旅する気分だった》2023 年

写真：志鎌康平

荒井良二（あらい・りょうじ）

1956 年山形県生まれ。『たいようオルガン』で JBBY 賞を、『あさになったのでまどをあけますよ』で産経児童出版文化賞・大賞を、『きょうはそらにまるいつき』で日本絵本賞大賞を受賞するほか、2005 年にはアジアで初めてアストリッド・リンドグレーン記念文学賞を受賞するなど国内外で高い評価を得ています。2012 年 NHK 連続テレビ小説「純と愛」のオープニングイラストを担当。ライブペインティングやワークショップのほか、作詞・作曲やギターも演奏するなど音楽活動も展開。2018 年まで「みちのおくの芸術祭山形ビエンナーレ」の芸術監督を務め、近年さらにその活動の幅を広げています。

毎週ぼくは谷内六郎に会っていた

荒井良二が選ぶ谷内六郎〈週刊新潮 表紙絵〉展

谷内六郎は、1956（昭和 31）年に『週刊新潮』が創刊されたときから、1981（昭和 56）年に本人が世を去るまでの約 25 年の間に、1300 点を超える表紙絵を描きました。谷内六郎館では 1 年に 4 回作品を入れ替え、さまざまな切り口から、谷内六郎の表紙絵の世界を紹介しています。
今会期は、絵本作家として活躍されている荒井良二さんが選んだ表紙絵を紹介します。

① 女の子は、どんな想像をしているのでしょう？

② なぜ①のような想像をしたと思いますか？

谷内六郎《泳ぎすぎた夜》1970 年 8 月 29 日号　©Michiko Taniuchi

谷内さんが、表紙絵について書いた「表紙の言葉」を読んでみよう。
作品を知るヒントになるよ。

表紙の言葉　『泳ぎすぎた夜』

谷内六郎

ブールや海で泳ぎすぎて疲れて帰って来た子は、何とはなく部屋などがゆれる波のように感じます、とくに寝る時はからだがフトンやベッドごとゆれて海やプールの波の続きを味わいます。

とにかく夢がムラサキ色になってガタガタふるえてもまだ水につかっているという具合に子供は水あそびが好きです、感覚のバランスがとれなくなるのも自然現象のようです。

残りわずかな夏を子供達は最後まで水泳を楽しみたいような季節です、しかし今はでも泳げるプールが方々に出来ているので、だん〳〵公害と一緒に季節感というものもなくなっているのかもしれません、いつも寒いのは頭の中とふところの中で、まわりは物質と公害でふくれ上る、そういう秋も又しのびよる日本なのかもしれません。

谷内六郎さんについて調べてみよう。図書室には展覧会図録や、谷内さんが描いた挿絵つきのエッセイや画集など、関連した図書がたくさんあります。

令和 5 年度第 2 期所蔵品展　特集：没後 20 年 若林 奮（わかばやし いさむ）

所蔵品展では、横須賀美術館で保管している美術作品（コレクション）を中心に、横須賀にゆかりのある作家の作品などを展示しています。年に 4 回、展示作品の入れ替えをおこない、さまざまな切り口から作品を楽しめるように工夫しています。
今回は、美術館前庭の屋外彫刻《Valleys（2nd Stage）》(1989 年制作 /2006 年設置) の作者、若林奮 (1936 ～ 2003) を取り上げ、日記のように毎日書き続けた紙の作品や亡くなる直前に作った小さな彫刻作品を展示します。

若林奮《Valleys（2nd Stage）》(1989 年制作 /2006 年設置)
2023 年撮影：山本糾

キャプションの読み方

キャプション (作品横のプレートのこと) から、作品情報を読み取ることができます。
このほか、「出品リスト」にも、作品情報が掲載されています。

① 島田章三　1933－2016
② 横須賀
③ 1988（昭和63）年
④ 油彩・画布
作家寄贈
⑤ SHIMADA Shozo
⑥ Yokosuka
⑦ 1988　Oil on canvas

①作者名 (生年 - 没年)
②作品名
③制作年
④技法・素材等
⑤作者名 (英)
⑥作品名 (英)
⑦制作年　技法・素材等 (英)